第5話 歳暮南風 篇

風の島の思い出旗

1

お元気ですか。2月に入って、寒さも少し落ち着くかなと思っていたら…大寒波がやって来ました！　島で雪が降るのは珍しいのに、30㌢も積もったんです。雪かきは大変だったけれど、念願の雪だるまを作ることができて楽しかったな。

寒い日が続いているので、私は図書館で借りた本を読んでいます。この前は、風の島を世界に初めて紹介した冒険家のタバスコ・ダ・カリーの伝記を読みました。料理人でもあったカリーは、幻の香辛料を求めて旅をしていたんですって。

風の島では、2月22日はカリーの日。猫舌のカリーが「フーフー」とカレーを冷まして食べていたということから、語呂合わせでそうなったのだとか。この日は、安全な航海を願って、島のみんながそれぞれの船に大きな旗を飾ったあと、カリー・カレーを食べるんです。旗には、去年、一番心に残った出来事を絵にして描くんですよ……。

2

山猫のマヤ太郎の家では、旗作りの真っ最中です。去年、大好きだった祖父のミアじいさんが亡くなり、マヤ太郎は悲しい日々を送りました。正義感の強かったミアじいさんは、長年、島の消防団長として活躍しました。嵐の夜、ガジュマルに雷が落ちて火事になったとき、ミアじいさんはチリチリとひげを焦がしながら消火活動に当たりました。勇気ある祖父の存在は、マヤ太郎にとって何よりの自慢でした。

引退後、ミアじいさんはグラウンドゴルフをはじめました。凝り性で負けず嫌い。そんな性格もあって、メキメキと腕を上げ、風の島カップで3連覇した記録はいまだに破られていません。難関の5番ホールでホール・イン・ワンを決めたのは、伝説となっています。マヤ太郎は涙を拭きながら、ミアじいさんがトロフィーを持っている姿を描くことにしました。

3

赤ヘビのポーラも、庭で旗作りをしていました。去年は何があったんだろうと思い返してみると、失恋を3回したことを思い出しました。3匹とも島の外からやって来たヘビで、1匹はクールな科学者の青ヘビ、2匹目は宝石商の金持ち黒ヘビ、3匹目は旅をしていたワイルドイケメンの緑ヘビでした。ポーラは得意のコブラダンスで求愛しましたが、見事に撃沈。悔しくて、悲しくて、眠れない夜を過ごしましたが、脱皮をしたらうそのようにサッパリ忘れてしまいました。

美容家で薬剤師でもあるポーラは、島の植物を使った化粧品の開発に夢中です。井戸からくんだ水に月桃を浸し、ハトムギ、アロエ、タンカンの果汁を独自の配合で混ぜた化粧水は、お肌がツルツルになると評判です。私はこの島のクレオパトラよ！　もっとキレイになって、私をフッたオトコたちを見返してやるんだから！
絵を描きながら、ポーラは決意を新たにしました。

4

黄フクロウのチチクーにとって、去年は怒涛の一年でした。ボボ美と結婚して、独身時代を過ごしたアカギからガジュマルの大木へ引っ越しました。ついこの前まで好きな時間に外出して、好きな時間に食事をしていましたが、今ではボボ美のリズムに合わせています。ボボ美はベッドの固さやインテリアの植物にもこだわりがあり、新婚なのにケンカが絶えません。

去年の春には、五つ子が生まれました。あっちでピーピー、こっちでピーピー。静かになったな、と思ったら、またしてもピーピーの大合唱…。初めての子育ては大変で、自分の時間が少しも持てません。毎日がてんてこ舞いで、最近はストレスで首が回らなくなりました。それでも、子どもたちはカワイイので、チチクーはせっせとミミズをとりに出かけます。今年は、自分が目を回している様子を絵にすることにしました。

5

2月22日の朝、風の島の住民たちは港に集まり、それぞれの船に旗を飾りました。そうして、順番に、旗に描かれた去年の出来事について発表しました。風の島のみんなはマヤ太郎の話に涙を流し、ポーラの話に激励の拍手を送り、チチクーの話に「修行だよ！」と声を飛ばしました。北風にパタパタとなびく旗は、風の島の歴史をまた一つ積み重ねていくのでした。

全員の発表が終わり、みんなで航海の無事を願って祈ったあと、ウシおばさんが一晩かけて作ったカリー・カレーがふるまわれました。猫舌のカリーをまねて、みんなでフーフー…そして、パクリ！　大勢で食べる食事は、特別においしく感じられます。今年はどんな年にしようかな……。自然と会話も弾み、港はにぎやかな声に包まれました。

風の言葉

みんなで食べるご飯は特別においしい！

風の知

歳暮南風（シーブーバイ）

旧正月の頃に吹く南風。漁師町では、今でも旧正月を盛大に祝うどこかがあるよ。
糸満や宮古島では、一年の航海安全と豊漁・豊作を祈願し、大漁旗を掲げるよ。